

演奏会場に観客が入場すると、すべての客席に、以下の枠内の文言が印刷された紙と、何等かの楽器（ホイッスル、ゴング、クラッカー等）が置いてある。

最初の作品でご使用いただく楽器です。
好きな楽器をお選びになって、好きな場所にお座りください。

●最初の作品では、奏者の演奏する音楽を聴きながら、休憩、沈黙と思われる箇所を探していただき、該当の箇所だと思いにいられたら、即座に“大きな音でお手持ちの楽器を鳴らしていただきます。

●その際、二つのルールがあります。
※一度の沈黙に鳴らせる音は、お一人様につき、一回だけです。（同じ沈黙内で何度も叩いたり、吹いたりはできません）
※もしも沈黙だと思って音を出した際に演奏と重なってしまった場合、その時点で楽器を置いて、それ以降は音を出さないでください。

●お手数ですが、上記の条件の中で沈黙を探して、“思い切り大きな音で”音を鳴らしてください。

演奏者が演奏した曲は、「モーツァルト：ピアノ四重奏曲第2番 K.493 第2楽章ラルゲット」であった。

観客は、モーツァルトを聞きながら、沈黙を探すために、どんどん集中していく。その作業はかつて亀井が学んだ「イヤークリーニング」のワークショップの手法にヒントを得ている。